メンズエステの施術中、紙パンツ越しに女の子の腕と肘が何度も擦れて射精してしまった話

平日の夜、仕事終わりに予約していたメンズエステへ向かった。
 疲れを取って、女の子に密着されて心身ともに癒されたかった。

受付で予約した名前を告げると、個室に通される。
 薄暗い間接照明と、ほのかに甘いアロマの匂い。

ドアが静かに開き、担当の女性が入ってきた。

20代半ばくらいだろうか。白い制服に身を包み、髪をゆるくまとめた彼女は、柔らかな微笑みを浮かべて一礼した。

「本日担当の神崎です。よろしくお願いします。それではこちらの紙パンツにお着替えください。」

着替えを促され、用意された紙パンツ一枚になる。

薄い紙の素材は、肌に張り付くように軽く、肝心な部分をかろうじて覆っているだけだった。

うつ伏せからスタート。

オイルを温めた手が背中に置かれた瞬間、思わず息を呑む。

肩から腰へ、太もも裏へと丁寧にほぐされていく感触は、確かに疲労を溶かしていく。

彼女の動きは無駄がなく、時折「ここ、凝ってますね」と静かに呟くだけ。

10分ほど経った頃、

「仰向けになってください」

と促された。

体を返す。

紙パンツの薄い生地が、すでに少し反応し始めているチンポを強調するように張りついていた。